

# 歴史公園 彼杵の荘

東彼杵町は、1万年以上前の旧石器時代から人々が住みはじめ、特に弥生時代から古墳時代にかけて彼杵郡(現在の長崎市・佐世保市・大村市・西海市・西彼杵郡・東彼杵郡)の中心として栄え、江戸時代には長崎街道や平戸街道の宿場町として大いに賑わいました。そのため町内には数多くの史跡や文化財が残っており、中でも県指定史跡「ひさご塚古墳」は歴史的価値の高いものです。



## 施設概要

- ひさご塚古墳 ● 明治の民家
- 歴史民俗資料館

## 公園のご案内



# 東彼杵の歴史絵巻

HISTORY PARK  
SONOGI NO SHOU



## 公園概要

- 歴史民俗資料館
- 明治の民家
- ひさご塚古墳
- 道の駅「彼杵の荘」

## 利用案内

1Fフロア………企画展 展示  
2Fフロア………常設展(歴史館・文化館)展示  
全フロア観覧無料 2F常設展のカメラ撮影は禁止

- 資料館研修室使用料
- 10:00~12:00 \_\_\_\_\_ 1,000円
- 12:00~17:00 \_\_\_\_\_ 1,300円
- 10:00~17:00 \_\_\_\_\_ 2,000円
- 開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)
- 休館日  
毎週火曜日  
年末年始(12月29日~1月3日)

## 交通案内

- 長崎自動車道東そのぎI.Cから佐世保方面へ約200m
- JR彼杵駅から徒歩10分
- 町営バスセンター前バス停から徒歩3分



## 【問い合わせ先】

## 歴史公園[彼杵の荘]

東彼杵町歴史民俗資料館

〒859-3807 長崎県東彼杵郡東彼杵町 彼杵宿郷 437番地1

TEL.(0957)46-1632

# 東彼杵の歴史絵巻

HISTORY PARK  
SONOGI NO SHOU



◆ 歴史絵巻が  
織りなす  
時の異空間



歴史公園[彼杵の荘]  
東彼杵町歴史民俗資料館

# ひさご塚古墳

Hisagoduka-kohun



ひさご塚古墳

ひさご塚古墳は長崎県の代表的な前方後円墳で、形がひょうたん(ひさご)に似ているところからこの名があります。今から約1,500年前にこの地域を治めていた有力な豪族の墓です。



ひさご塚古墳から出土した銅鏡

### 矢じり

ひさご塚古墳には二つの石室(埋葬施設)があり、そのうち1号石室から出土しました。長さ15.5cm、幅4.0cmの鉄製矢じりで、2種類の透かしがあるのが特徴です。



ひさご塚の石室



鉄剣・刀子

勾玉と  
ガラス玉



明治時代町内中岳郷に建てられた、富農家の母屋部分を移築したものです。



明治の民家(旧岳中邸)

# 明治の民家

Meiji-no-minaka

## ◎歴史民俗資料館

### ◆歴史館

1万年以上前の旧石器時代から、大村湾沿岸地域の中心として栄えた弥生古墳時代、大規模な新田開発が行われた江戸時代までの歴史と、彼杵茶に関する資料を展示しています。



### そのぎ茶の発達

彼杵茶は江戸時代から栽培されており、特に幕末には貿易商 大浦 慶によって海外にも輸出されていました。その後、明治・大正から昭和の初めにかけて、田島福次郎や野田卯太郎、中島 栄などが現在の茶園の基礎を作り、その後土地改良などを進め、長崎県の茶生産量の大部分を占めています。



深澤儀太夫勝清、勝幸  
初代の深澤儀太夫は佐賀県北方町の生まれで、紀州(和歌山県)で捕鯨の技術を学び、大村藩を拠点に鯨組を始めました。勝清は捕鯨で得た財を大村藩に献金し、千綿村の新田開発に貢献しました。また、2代目勝幸も捕鯨で得た財をもとに、自ら千綿村の新田開発を行いました。



中国の後漢時代の鏡片  
(白井川遺跡出土)



石さじ



白井川遺跡のカメ棺石室



3色の真珠

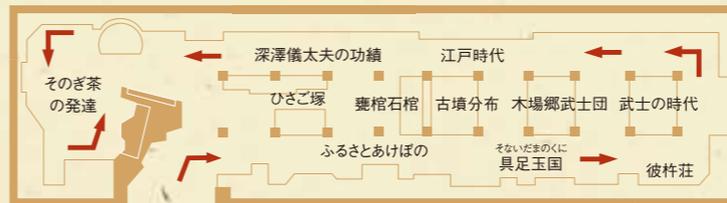


木場武士団



陣立屏風

### ◆歴史館案内図



# 庶民の息吹

Syonin-no-ibuki



脇本陣の鬼瓦

### ◆文化館

長崎街道の宿場町として栄えた郷土の文化や人形浄瑠璃などの郷土芸能に関する資料を展示しています。



### 坂本浮立

今から約400年前の江戸時代佐賀県から坂本地区に伝わった神楽浮立で、県の文化財に指定されています。大村藩の御用浮立として重用、保護され、日照続きの時には舞って雨乞いをし、雨が降ると殿様からたくさんのご褒美が出ました。大村藩内の他の浮立は、坂本浮立が起源と伝えられています。



### 千綿人形浄瑠璃

今から約200年前の江戸時代に千綿宿で始まったと伝えられており、県の文化財に指定されています。明治・大正のころ大変盛んで、地元水神宮の祇園祭で上演される他、各地を巡業していました。その後、後継者不足で上演できていませんが、現在は活動再開に向けて後継者育成を進めています。



額塚石(従是南大村額)

### ◆文化館案内図



本町の龍踊り

### 井手寿謙氏採取の細石核・細石刃

町の郷土史家井手寿謙氏が戦前、東彼杵町や隣の大村市を中心に採取した石器の一部で、大村市野岳遺跡の細石器です。この当時の日本考古学では「旧石器」は発見されていませんでしたが、井手氏は自身の採取した石器が「旧石器」であると認識していたと云われています。後に野岳遺跡で発見された細石核は「野岳・休場型」と名付けられました。



### 長崎街道の宿場名

小倉—黒崎—木屋瀬—飯塚—内野—山家—原田—田代—轟木—中原—神埼—境原—佐賀—牛津—小田—北方—塚崎—嬉野—彼杵—千綿—松原—大村—永昌—矢上—日見—長崎